

水害に備える

避難のための日ごろの備え

1 非常持ち出し品を準備しておきましょう

避難所の備蓄品には限りがあります。各自で十分な準備をしておきましょう。



4 早めの避難を心掛けましょう

浸水してからの自宅外避難は危険です。降雨や河川水位などの情報をもとに、身の危険を感じたら避難情報が届くのを待たずに自主的に避難を開始してください。一刻を争う事態ですので、避難のタイミングを逃してはいけません。

避難を助ける情報は、**6～7ページ**

5 ご近所に声をかけましょう

ひとりでの避難は、思わぬ事態にあったときに危険です。避難する前に隣近所に声をかけ、集団での避難を心掛けましょう。

6 避難所でみんなが快適にすごせるように

避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在します。ルールやマナーを守り、互いに助けあいましょう。

避難所生活の心得は、**37ページ**

自宅にとどまるときは

1 周囲が浸水してからの自宅外避難はやめましょう

水害時、自宅にとどまるかどうかは、逃げどきマップでご確認ください。
逃げどきマップは、**8～25ページ**

2 身の安全を確保しましょう

地下室や低い場所は、水圧でドアが開かなくなることがあります。できるだけ高いところや斜面から離れた部屋で身を守りましょう。

3 水道・電気・ガス・トイレなど、ライフラインの停止に備えましょう

ライフラインの停止は長期に及ぶ可能性もあります。ライフラインが復旧するまでの数日間のために、飲料水や食料などの備蓄があると安心です。

非常用備蓄品の例は、**38ページ**

4 家屋や家財の被害軽減を図りましょう

下記の浸水被害を軽減する方法を実践して、家屋や家財を浸水から守りましょう。

浸水被害を軽減する方法

浸水に備えて日ごろからできることがあります。

側溝や排水溝の清掃をしましょう

雨水がスムーズに流れなくなると、雨水が溜まり、浸水が発生します。日ごろから側溝や排水溝の掃除をして、水はけを良くしておきましょう。



保険・共済に加入しましょう。

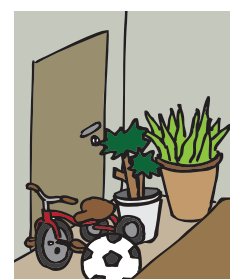
浸水被害からの生活復旧には、想像以上の費用がかかります。水害に対応した保険や共済に加入しておくことで、生活復旧への支援が受けられます。



できるかぎりの被害の軽減を図りましょう。

屋外の作業は大雨が降る前に

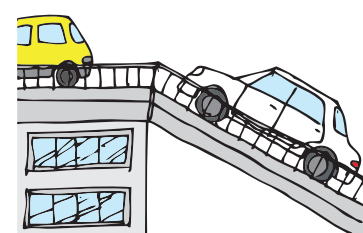
物干しざおや物干し台は寝かせ、風で飛ばされそうな植木鉢やゴミ箱などは、室内に入れるなどしておきましょう。窓や屋根の補強などは、早めに終わらせておきましょう。



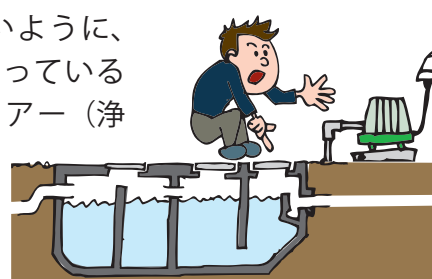
エアコンの室外機や配線類の浸水による感電は、ブレーカーを落としておくことで防ぐことができます。



自家用車を早めに安全な場所へ移動しておくことで、水没を防ぐことができます。



浄化槽に土砂や泥が浸入しないように、浄化槽のフタがしっかりと閉まっているか確認しましょう。また、ブロアー（浄化槽ポンプ）の電源を切り、高い場所に移動しておけば、故障を防ぐことができます。



簡易水防工法で浸水を防ぎましょう

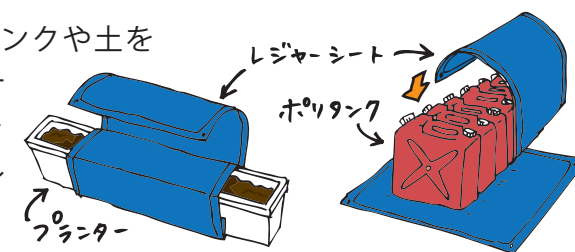
簡易水防工法は、家庭にあるものを使って家屋への浸水や流入を防ぐ方法で、水深が浅い段階では有効です。玄関などの出入口だけでなく、床下への浸水の防止も重要です。

出入口に板などを設置し、浸水を防ぎます。



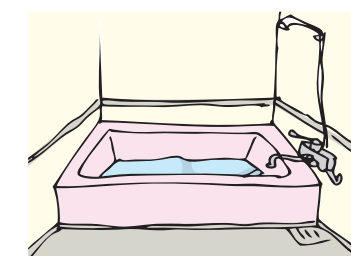
40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。

水を入れたポリタンクや土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。



思わぬ場所からの浸水を防ぎましょう

建物の周辺が浸水すると、下水が逆流して、排水口などから水が噴き上がることがあります。水を入れたビニール袋などを置くと、逆流を抑えることができます。



風呂の浴槽の水を流さずに溜めておくと、下水の逆流を防ぐことができ、生活用水としても利用することができます。

大事なものを高いところへ上げましょう

できる限り大事なものを浸水しない高いところへ上げておくことで、浸水被害を防ぐことができます。

